

山口県内でも、インフルエンザが猛威を振るっていますので、くれぐれも体調を崩されません様、お気を付け下さい。外出後は、手洗い、うがいを行い、予防に努めましょう。



WGの進捗状況について

医学教育分野別評価対応WG委員長(法医学) 藤宮龍也

2023年問題を端緒とする国際認証といわれる医学教育の分野別評価を山口大学は2019年度に受審することが決まりました。医学科としては対応WGを立ち上げて、世界医学教育連盟の「医学教育の国際基準2015年版」に準拠した日本版医学教育分野別評価基準について各項目を詳細に自己点検し、必要な小ゴールとプロセスを割り出しています。その内容は、1)使命と学修成果、2)教育プログラム、3)学生の評価、4)学生、5)教員、6)教育資源、7)プログラム評価、8)統轄及び管理運営、9)継続的改良と多岐にわたり、第7回WGが12月21日に開催されました。

2017年度には新コア・カリキュラムが発表される予定で、国際認証に対応した形になる予定です。特に、臨床実習における学生のminiCEX評価を初めとしたアウトカム基盤型教育方式の導入が改革の目玉となると思われます。また、学生支援の体制として担任制の導入も必要です。分野別評価へ向けての準備組織の設立もこれからの課題です。最終ゴールは山口大の2019年度版自己点検評価書の作成と受審となりますが、それまでにどこまで、新コアカリへの対応や教育改善が行えるかが問題です。受審自体はゴールではなく、教育改善へと向かうプロセスの一つ(PDCAサイクル)でしかありません。山口大学の教育は秀でていると認められるように、是非、先生方のご協力を願いたく存じます。

プレ臨床実習チュートリアルが開催されました。

1月10日～25日の3週間、プレ臨床実習チュートリアルが開催されました。プレ臨床実習チュートリアルは、広く臨床医学を理解し、患者中心の医療を実践できるようになるために、具体的な臨床例から問題点や課題を発見して、それらを解決するための学習方法を修得し、自発的に医学を学ぶ習慣を身につけることを学習目標としています。最初のプレ臨床実習チュートリアルでは、総合診療(消化器)分野でのシナリオに取り組み、次のプレ臨床実習チュートリアルでは、呼吸器分野でのシナリオに取り組みました。初日はシナリオから問題点や課題を抽出するのが不十分な班もありましたが、日を追うごとに改善され、抽出された問題点や課題を整理し、意見や討論も活発になっていきました。さらに1月13日、1月27日にユニット総括講義と学生発表が行われました。どの班からも十分に考察し、発表の準備をした様子が伺えました。この期間中に合わせて、学外臨床実習病院の見学や大学病院の多職種連携実習も行われました。

医学教育豆知識

【参加型臨床実習の教育理論①】

臨床実習充実化の中心的な議論が見学型から参加型への移行です。その中心的理論的背景の一つが、**正当的周辺参加論(Legitimate Peripheral Participation)**です。正統的周辺参加論とは、自分が参加していると認めている組織において、周辺から少しずつ役割を持ちながら主体的に参加していくことで学習が成立するという考えです。最初は小さな役割(責任)を持って徐々にその責任の度合いを大きくしていく。これらの考えを元に、屋根瓦方式という教育体制が構築されています。



第2回 一般教養・基礎社会医学系教員のためのカリキュラムプランニングワークショップへの参加報告

医学教育学講座 助教 西本 新

12月23日から24日にかけて東京医科大学で開催された、第2回 一般教養・基礎社会医学系教員のためのカリキュラム・プランニングワークショップ(WS)に参加してきました。このWSは全国の医学・医療・薬学系大学においてカリキュラム作成や医学教育を担当している教員のうち、一般教養・基礎社会医学系の教員を対象として定員40名で開催されました。東京医科大学の自主自学館(教育研究棟)において、医学教育に関する講義、7~8人のグループワーク、討論から構成されました。グループワークは、A班~E班に分かれ、病理学、行動科学、医学英語、多職種連携教育、解剖学のいずれかの科目について、①「アウトカムを見据えた科目の到達目標(コンピテンシー)」、②「学習方略・アクティブラーニング」、③「学習評価ーパフォーマンス評価を含め」という順番で行われました。ちなみに私のグループは「解剖学」を担当しました。医学・医療・薬学系の教授クラスの方々の参加も多く、各先生方の豊富な経験に基づいた意見を聞き、また討論を重ねることで、深く考察することができました。

また、World Caféというスタイルのグループワークを行いました。World Caféとは、グループワークの一つのやり方で、テーマごとにメンバーを入れ替えて討論を行います。(これをラウンドと呼びます。)テーブルごとに「テーブルマスター」を決め、テーブルマスターは固定で司会を担当し、ラウンドごとにテーブルマスター以外のメンバーは他のテーブルに移動し、入れ替わったメンバーで討論を行います。第1ラウンド「こういう医者になって欲しい」、第2ラウンド「素敵な医者が備えている能力とは」、第3ラウンド「医学部での卒業時アウトカムを設定しよう」、第4ラウンド「発表用資料の作成」といったテーマで行われました。各ラウンドのテーマで話し合う前に、前のテーブルでの討論の内容のうち、興味深かったものをメンバーに伝え、共有するというを行いました。結果として、様々なテーブルでの討論のコアとなる部分を踏まえた幅広い議論ができたのではないかと思います。

WSの閉会にあたり、WSで得た内容を各大学に持ち帰り、スタッフの先生方とよく話をし、情報を共有していきたいという意見が多く挙がっていました。本学でも今後、新コアカリキュラムに対応したカリキュラムの改変や国際認証が進められますが、今回学んだことを医学教育の様々な活動に活かしていきたいと思います。

白衣着衣式が開催されました。

2月から臨床実習が始まる医学科4年生に白衣を贈る白衣着衣式が開催されました。白衣着衣式は、これまで講義と実習で学んできた学生が、臨床実習に入る前に行う節目の儀式です。式では、スチューデントドクターの認定書と山口大学のロゴが入った白衣が渡されました。谷澤医学部長、福本霜仁会会長、田口病院長から代表の学生に白衣が着せられ、それに合わせて他の学生も白衣に袖を通しました。代表の口分田君が「初心を忘れず、患者さんと信頼関係を築き、地域社会に貢献する医師を目指します」と宣誓し、学生は皆、2月から始まる臨床実習に向け、決意を新たにしていました。



ご意見・ご要望等につきましては、医学教育センターへ
お願いします。 TEL: 0836-85-3747

E-mail: mec01@yamaguchi-u.ac.jp